

2025年9月ハイパーカレンダーレポート

立秋とは名ばかりの暑さが続いていた9月下旬、世間が残暑で暑さを感じる中、私は韓国 全州にて FIDA WORLDCUP JEONJU2025 における熱波のど真ん中にいた。

ハイパー研の活動とはだいぶ異なる取り組みであるが、私はドローンサッカーの活動を約5年前から行っている。

ドローンサッカー®とは、韓国発祥の競技で、球状のプラスチックフレームに覆われた専用ドローンボールを使用し、5 対 5 で戦う最新戦略型チームスポーツだ。ドローンボールを専用ケージ内のフィールド両サイドの空中に設置したリング状のゴールに入れることで、その得点を競う競技である。

2020年 大分県立情報科学高等学校で高校3年生だった当時、校内にドローンサッカー愛好会という真新しい部活動が創部され、興味本位で体験をしたところ、気づけば愛好会の一員になっていた。そこから、社会人になった現在も古巣である情報科学高校ドローンサッカー部の部活動支援や定期的に開催される国内大会へ参加しており、今も本業と並行してドローンサッカーの活動を続けている。

そんな中、ドローンサッカー発祥の地である韓国 全州市にて FIDA WORLDCUP JEONJU2025 が行われた。

私も選手として、そして日の丸と情報科学高校の看板を背負って挑む、情報科学高校 生徒2名のサポートもかねて9月25日～27日に行われたワールドカップへ参加した。

結果は、National Championship (国別対抗戦) Class20 で金メダル、クラブチーム世界一を決める Club Championship Class20 で銀メダルを獲得した。
Club Championship では、決勝で韓国と対決し、惜しくも準優勝だったが、
National Championship では、日本選手団の大きな声援もあり、韓国との再戦で見事リベンジを果たすことが出来た。これも Japan 一丸となって勝ち取った優勝である。

私は今回の World Cup を通じて、ドローンサッカーが秘めている可能性を再認識することが出来た。それはただ優勝できたからではなく、世界中のドローンサッカーを愛する競技者と交流を深める中で、言語や国籍の壁を越えてドローンサッカーを楽しむ姿勢は世界共通であるということを目の当たりにしたからである。

この「純粋に楽しむ心」が国境を越えて共鳴し合う瞬間に立ち会えたことは、私にとってかけがえのない経験となったため、この感動を原動力に、今後は日本国内の競技力向上だけでなく、ドローンサッカーという素晴らしい競技を通じて、より多くの人々が繋がり、笑顔になれる未来の創造に貢献していきたいと決意を新たにした。

(文責: 井 優月)